

Lecture

「安全率を考える」第11回

Returning to the fundamentals of safety factor No. 11

11. 講座を終えるにあたって

山田正雄 Masao YAMADA／国土防災技術(株) Japan Conservation Engineers Co.,Ltd.

本講座は、各分野の安全率に対する考え方、物やシステムの破壊等の安全率の物差し、安全率の定義方法、安全率の活用の仕方等を知ることから安全率に対する基本的な考え方を洞察することにより、我々が何気なく用いている安全率を再認識するために企画した。しかしながら、同時に、近年の社会環境の変化に伴い安全率に対する考え方にも柔軟性が求められていることを読者に感じ取ってもらえるために、講座をどういった側面から企画したらよいか、当初非常にとまどったのを覚えている。そんな中であって、神戸大学の沖村孝名誉教授、吉田信之准教授、(株)アイエスティの吉松弘行氏、(財)砂防地すべり技術センターの綱木亮介氏に相談したところ講座準備会への参加をご快諾頂き、学会編集委員からの面々とともに、「安全率に関する講座委員会」として立ち上げることができた。1年間の準備期間をとり、講座委員会の熱い討論を経て安全率講座の企画がまとまり、ようやく学会誌に掲載することが可能となった。また、執筆者の

方々には、貴重な時間を割いて執筆いただいたことに心から感謝いたします。

学会誌に掲載された周辺分野の安全率の考え方を踏まえて、最後に、「地すべりにおける安全率に関する座談会」で締めくくる企画とした。地すべりに携わってこられた学識経験者の方々の学識と経験談に裏打ちされた大変興味深い内容となり、講座委員会の面々にとっても感慨深いものがあると思う。

本講座で示された内容から、地すべりにおける技術的な安全率についての今後の課題、検討事項が浮き彫りになり、将来的な地すべり技術の進歩につながれば幸いである。

何とか無事に本講座を最後まで終えることができたのは、関係各位の協力があつたからこそで、ここにお世話になった皆様に深く感謝致します。

(原稿受付2009年2月27日、原稿受理2009年3月4日)

表-1 講座のテーマと執筆者

回	章、タイトル	執筆者(敬称略)	掲載号
1	1. 講座を始めるにあたって	山田正雄(国土防災技術)	44-3
1	2. 土木、特に地盤工学における安全率	東畑郁生(東京大学)	44-3
2	3. 建築構造物の設計と安全率	高橋徹(千葉大学)	44-4
3	4. 機械分野における安全係数	小林英男(横浜国立大学)	44-5
4	5. 大規模システムと安全率	高野研一(慶應義塾大学)	44-6
5	6. 鉄道と安全率	岡田勝也(国土館大学), 杉山友康(鉄道総合技術研究所)	45-1
6	7. 道路のり面と安全率	沖村孝(神戸大学), 吉田信之(神戸大学)	45-2
7	8. 自然斜面と安全率	鵜飼恵三(群馬大学)	45-3
8	9. 周辺分野の安全率の考え方と地すべりにおける今後の課題	「安全率に関する講座委員会」	45-4
9	10. 地すべり分野における安全率に関する座談会	鵜飼恵三(群馬大学), 沖村孝(神戸大学), 奥園誠之(高速道路技術センター), 釜井俊孝(京都大学), 土屋智(静岡大学), 若井明彦(群馬大学, 司会)	45-6
9	11. 講座を終えるにあたって	山田正雄(国土防災技術)	45-6

※) 「安全率に関する講座委員会」のメンバーは下記の方々です(敬称略, 1)印は本講座担当)。

阿部真郎, 新井場公德, 梅村順, 沖村孝, 新屋浩明, 綱木亮介, 山田正雄¹⁾, 吉田信之, 吉松弘行